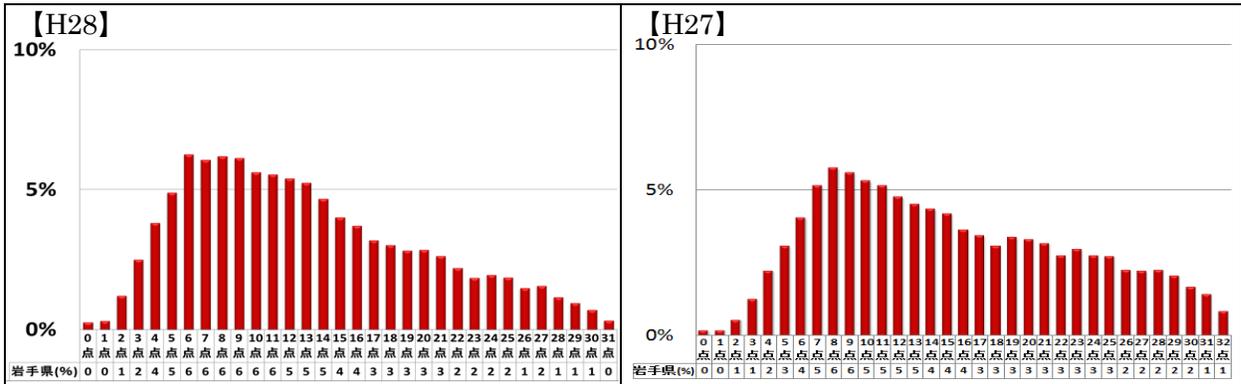


# 授業改善の手引 中学校第 2 学年英語

## 1 調査結果

### (1) 分布状況



- 問題数は昨年度から 1 問減の 31 問, 正答数の最頻値は昨年同様 8 問です。また平均正答数が 13 問です。ヒストグラムの山の中央が左に位置し, 正答数 6 ~ 10 問の層が増えています。  
(正答数の最頻値: 該当する生徒数の最も多い正答数)

### (2) 領域等の正答率

領 域 等	正答率 ( ) は H27, < > は H26			観 点 等	正答率 ( ) は H27, < > は H26		
	聞くこと (5 問)	70%	(71%)		<76%	外国語理解の能力 (18 問)	51%
読むこと (13 問)	44%	(44%)	<53%	外国語表現の能力 (4 問)	21%	(29%)	<26%
書くこと (13 問)	29%	(41%)	<41%	言語に対する知識・理解 (9 問)	33%	(46%)	<44%
				活用 (3 問)	22%	(40%)	<48%

### (3) 結果概要

- ◇ 「聞くこと」「読むこと」の領域別正答率に見る状況

「聞き取り問題」の読み上げ文が昨年度より長くなり, また調査全体を通した英語の分量も昨年度より増えていますが, この 2 つの領域の正答率は昨年度とほぼ同様の結果となりました。「聞くこと」70%, 「読むこと」44%。生徒質問紙において「まとまりのある英文を聞いたり読んだりして文章全体の概要や要点をとらえる活動をしている」という肯定的な回答をした生徒の割合も 84% と, 昨年度より増加しており, ある程度長さのある英文をまとめて聞いたり読んだりすることを, 授業で扱うことが意識されてきていると言えます。

- 「外国語表現の能力」における場面にふさわしい表現を判断する力

実際の言語の使用場面や働きを理解し, 文脈に沿った内容を書くことに課題が見られます。場面や状況に応じた表現を書く(許可を求める, 禁止する), 読んだメールに対して自分の考えを書くといった実際のやりとりを想定した問題が出題され, 「書くこと」の領域の正答率が 29% と例年より低くなりました。場面にふさわしい表現を判断して書くなど, 言語形式を判断する力を育てるための指導の工夫が必要です。

### (4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マウスを表す)

小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較	小問 No	正答率	比較
● 2	61	▲ 2	○ 7	82	▲ 8	● 30	23	▲ 14
● 6	31	▲ 8	◇ 18	49	15	● 31	17	▲ 7

- 小問 7 は昨年度を下回るものの, まとまった長い英文の聞き取りに対し正答率が 82% と成果が見られます。
- ◇ 小問 18 は正答率が 10 ポイント以上向上し, まとまりのある英文の概要把握に改善傾向が見られます。
- 小問 6 は無解答率が 3% ですが, 正答率は 31% です。過去のことを尋ねる言い回しを聞くことに慣れていないため, 現在形で答えてしまっている生徒(誤答: I study science.) が多く見られます。
- 小問 30, 31 は無解答率が 40% を超えています。読んだことについてメモを取る, 感想や理由を書く, 自分の考えや気持ちを書く等, 毎日の授業の中でも実際のやり取りを意識した表現活動の指導が必要です。

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選 択 No. (%)						
大問	中問	小問	通し番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)		1	会話(天候をたずねる場面)の流れを理解し、正しい表現を選択できる。	ア(ウ)聞く	理		77	9	77	8	5	0		0
	(2)		2	会話(交通手段をたずねる場面)の流れを理解し、正しい表現を選択できる。	ア(ウ)聞く	理	経年	61	7	16	16	61	0		0
	(3)		3	会話(複数のものから選ばせる場面)の流れを理解し、正しい表現を選択できる。	ア(ウ)聞く	理		67	67	10	9	13	0		1
2	(1)		4	キーワード(letter)を聞き、正しく書くことができる。	エ(ア)書く	知・理		24					49	24	27
	(2)		5	キーワード(busy)を聞き、正しく書くことができる。	エ(ア)書く	知・理		49					39	49	11
	(3)		6	キーワード(studied)を聞き、正しく書くことができる。	エ(ア)書く	知・理	経年	31					66	31	3
3	(1)		7	キーワード(明日、ピアノの練習)を聞き取り、正しい答えを選択できる。	ア(イ)聞く	理		82	1	6	10	82	0		0
	(2)		8	キーワード(川にごみを捨ててはいけない)を聞き取り、正しい答えを選択できる。	ア(イ)聞く	理	経年	65	10	65	20	5	0		1
4	(1)		9	言語の使用場面・働き(意思を表す表現)を理解し、正しい会話文を完成させることができる。	ウ(ウ)読む	理		39	35	39	17	7	0		1
	(2)		10	言語の使用場面・働き(勧誘の表現)を理解し、正しい会話文を完成させることができる。	ウ(ウ)読む	理		55	8	25	55	11	0		1
	(3)		11	言語の使用場面・働き(「～しないでよい」の表現)を理解し、正しい会話文を完成させることができる。	ウ(ウ)読む	理		51	51	12	19	16	0		1
5	(1)		12	対話とグラフの内容を正確に読み取り、空所に入る適切な数字を選択できる。	ウ(ウ)読む	理		58	16	58	11	14	0		1
	(2)		13	対話の前後のやりとりからReally?が表す内容を理解できる。	ウ(ウ)読む	理		54					33	54	13
	(3)		14	対話とグラフの内容を正確に読み取り、正しい答えを選択できる。	ウ(ウ)読む	理		67	11	13	8	67	0		1
6	(1)		15	対話の流れを読み取り、適切な表現を選択できる。	ウ(ウ)読む	理		51	15	19	51	13	0		1
	(2)		16	対話の内容を読み取り、正しい答えを選択できる。	ウ(ウ)読む	理		49	49	17	23	9	0		1
	(3)		17	対話の内容を理解し、その概要を日記文の形式で完成させることができる。	ウ(ウ)読む	理	活用	25	25	25	30	17	0		2
7	(1)		18	長文の概要・要点を理解し、正しい答えを選択できる。	ウ(ウ)読む	理	経年	49	4	23	49	21	0		2
	(2)	①	19	長文の内容を読み取り、時をたずねる文に正しく答えることができる。	ウ(ウ)読む	理		15					52	15	33
	(2)	②	20	長文の内容を読み取り、ものをたずねる文に正しく答えることができる。	ウ(ウ)読む	理		38					30	38	32
	(3)		21	長文の内容を読み取り、正しい答えを選択できる。	ウ(ウ)読む	理		15	11	37	33	15	1		4
8	(1)		22	場面と文法(Whatで始まる会話表現の疑問文)を理解し、正しい語順で書くことができる。	エ(イ)書く	知・理		26					68	26	5
	(2)		23	場面と文法(過去進行形の疑問文)を理解し、正しい語順で書くことができる。	エ(イ)書く	知・理		51					45	51	5
	(3)		24	場面と文法(接続詞ifを使った文)を理解し、正しい語順で書くことができる。	エ(イ)書く	知・理		43					51	43	5
9	(1)		25	How longのlongを正しく書くことができる。	エ(イ)書く	知・理		23					60	23	17
	(2)		26	動詞callを正しく書くことができる。	エ(イ)書く	知・理		20					57	20	23
	(3)		27	be動詞の過去形wereを正しく書くことができる。	エ(イ)書く	知・理		24					58	24	18
10	(1)		28	言語の使用場面・働き(許可を求める表現)を理解し、正しく書くことができる。	エ(イ)書く	表		20					40	20	40
	(2)		29	言語の使用場面・働き(禁止する表現)を理解し、正しく書くことができる。	エ(イ)書く	表		25					49	25	26
11			30	相手に提案する英文を書くことができる。	エ(エ)書く	表	経年活用	23					34	23	43
			31	相手に提案した内容について、その理由や説明を含めて、15語以上で内容につながりのある英文を書くことができる。	エ(オ)書く	表	経年活用	17					31	17	52
全体正答率								42							

## 2 指導のポイント

- (1) 読んだ文章に関して、自分の意見・感想・賛否やその理由などを書いて伝える力を身につけさせましょう。

### ア 問題の概要

- 11 メール文を読み、その返事として自分の考えを理由や説明を入れながら書くことができる。[正答率(1)23%, (2)17%]

〈問題〉 おすすめの場所などを尋ねられていることを読み取り、話の流れに合うように、理由や説明を入れながら提案する英文を書く問題。

<p>【メール1】 Hi, Takeshi, How are you? I had a good time with you in America. I'm going to visit Iwate next year. I'm really excited about it. Where should I visit? Please tell me about it. See you.</p> <p style="text-align: right;">Daniel</p>	<p>【メール2】 Dear Daniel, Thank you for your e-mail. I'm very happy. When you come to Iwate, <span style="border: 1px solid black; padding: 0 20px;">①</span> . <span style="border: 1px solid black; padding: 0 100px;">②</span> I hope you'll like my plan. See you then.</p> <p style="text-align: right;">Takeshi</p>
--	--

〈正答例〉 When you come to Iwate, you should visit Morioka. There is a big festival in early August. It's Sansa Odori festival. You can see many drummers and dancers there. You'll enjoy the sights and the sounds on the street.

〈誤答例〉 (1) is very beautiful / Hanamaki city (主語・動詞の欠落) If you come to ~. (接続詞の用法)  
How about you / You are welcome / (文脈にあわない3語の表現等) (誤答: 34%, 無解答: 43%)  
(2) Iwaizumi is a lot of tree. / I'm eat Wankosoba. / We going to go to konjigidou. (動詞の誤った使用)  
Because Hiraizumi is very beautiful city. (接続詞の用法) (誤答: 31%, 無解答: 52%)

### イ 誤答分析

#### (7) 与えられた状況を基に内容を考えて書くことの課題

無解答または目的から外れた英文が散見されました。これは、メールで伝えようとしている書き手の意図が理解できていないことや、前後の関係をとらえて何を書くべきか思い浮かばなかったことが考えられます。今年度の出題では書く内容について日本語での指示(「おすすめの場所を書く」等)がありません。これらのことから、日本語の指示を基に書くことに比べ、与えられた資料・状況のみを基に内容を考えて書くことにおいて、課題があると考えられます。

#### (4) 適切な語彙や文構造を用いて書くことの課題

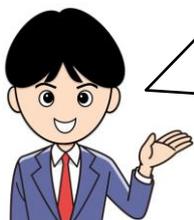
おすすめしたい場所はあるが、地名のみを記述したり、主語・動詞が欠落したりするなど、適切に表現することができなかつた解答が見られました。「3語以上で書きなさい」という設問に引きずられ3語のみの不十分な文で解答したりするものが、特に正答数半分以下の層にみられました。また、whenの節の後ろに“If you come to~”を続けて書くなど、接続詞を含む文の定着に課題が見られました。

### 参考資料【抽出解答用紙(319名)に見る正答数別正答率(正答数で4つの層に分類)】

問題番号	11	正答数別	0~6 (P)	7~13 (Q)	14~22 (R)	23~31 (S)
(1)		無解答	66%	51%	18%	2%
(2)		無解答	75%	65%	23%	10%

### ウ 改善の視点・・・「読む」活動から「話す・書く」活動への技能統合型の言語活動

#### (7) 場面設定を明確にし、対話や文章の流れにふさわしい文の形式や時制を考えさせる



正しくコミュニケーションを図ることができるような文を書くためには、適切な文の形式や時制を文脈から判断することが大切です。指導に当たっては、相手からの質問や依頼などを読んだとき、その意図を正しく理解し、適切に応じることができるように指導する必要があります。具体的には、文脈に適切な英文1文を多肢選択方式で選ばせる段階から、生徒の理解度に応じて適切な文の形式や動詞の形を自分で判断する段階へと指導内容を工夫することが考えられます。

授業アイデア例1 【教科書の対話文や本文を活用（適切な文の形式を判断させる指導の例）】

例)

Ken : It's almost noon. I'm hungry.

Miho: \_\_\_\_\_

Ken : Shall we go there?

Miho: Yes, let's.

(Sunshine2 P44 Basic Dialog より)

お昼の場面だなあ。

「そこに行こうか」と言っているから、その前には「いい店がある」って伝えるかな・・・

I know ○○○やThere's○○の文が使えるぞ！



例えば、日本語を訳させたり、1文のみを示して空欄を埋めさせたりするのではなく、例のように会話の流れの中でどういった内容を表現すればよいかを考えて文を作らせると、1文であっても「考える力」が付きます。

例) 職場体験についてたずねています。

Ms.Wood : How was your work experience, Takeshi?

Takeshi : It was hard, but exciting.

Ms.Wood : \_\_\_\_\_

Takeshi : I worked at a popular supermarket near here. ... (Sunshine2 P55 本文より)

(イ) 1回で終わらず、2回目・3回目の言語活動を仕組む

授業アイデア例2 【ある単元で技能統合型の言語活動を実施後、同様の場面を繰り返し設定する例】

メール文を読み、その返事として自分の考えを理由や説明を入れながら書く場面

1回目：単元のゴールとして

ALTの友人からメールが届き、「故郷○○をALTの友人に紹介する場面」を設定

Sunshine2 PROGRAM5では観光名所・名物・祭りなどの紹介文を書く場面が設定されています。メールが届くなど、目的をもって紹介文を書く場面設定を工夫します。

2回目：次の単元のwarm-upとして

「岩手県を紹介する設定」のメールに返信する

前単元と似たようなメール文（ALTに書いてもらうのもよい）をもとに紹介する場面を設定。このときに、今まで習った文法事項から選んで使わせることを大切にしましょう。

3回目：家庭学習等で取り組ませる

「日本を紹介する設定」のメールに返信する

授業以外に、家庭学習等でも取り組ませましょう。友だちが書いたものをお互いに読み合い、コメントをつけたり文の形式や表現を教え合ったりすることもできます。

同じ内容で4度のアウトプット！

4回目：パフォーマンス評価  
(期末テストや単元末)

「観光名所・名物・祭りなどを紹介する」

明確な採点基準を事前に生徒と共有することが大切です。「表現の適切さ」を見る場合、本調査の採点基準が参考になります。また「適切さ」と「正確さ」を含むルーブリックを活用することで、指導のねらいをより明確にすることができます。

表現する力

正確さ

適切さ



(2) 目的に合わせて英文を読むことを意識した指導を大切にしましょう。

ア 問題の概要

⑥ (3) 対話の内容を理解し、その概要を日記文の形式で完成させることができる。 [正答率 25%]

〈問題〉 次は、ビルがその日に書いた日記の一部です。対話の内容に合うように、( )に入る最も適切なものを、あとの1～4の中から1つ選び、その番号を書きなさい。

Friday, September 23

Today I talked with Yuri about our homework. I heard about the school library from her, and I went there. I ( ). At home, I read one of them. I'll read the other books tomorrow.

- |  |                               |
|--|-------------------------------|
| 1 read a book about hot springs in Iwate       | 〈正答〉 2                        |
| 2 found three books about hot springs in Iwate | 〈誤答〉 1 (25%), 3 (30%) 4 (17%) |
| 3 bought some books about Miyazawa Kenji       |                               |
| 4 liked some hot springs in Iwate              |                               |

イ 誤答分析

正答数が少ない層ほど選択肢[1]を選択している傾向がありました。これは、“library”やその後続く“read”など1つ1つの単語や文を断片的に読み判断したものと思われる。また、3割の生徒が誤答選択肢[3]を選んでいますが、Billがレポートで何について書くのか分からないまま読み進めていたこと、さらに“bought”という単語を、学校の図書館に行った時という場面で使用することが不適切であると判断できなかったことによるものと推測されます。

参考資料【抽出解答用紙(319名)に見る正答数別選択肢の反応率(正答数で4つの層に分類)】

問題番号⑥ 選択肢	0～6 (P)	7～13 (Q)	14～22 (R)	23～31 (S)
1	38%	28%	24%	10%
2 (正答)	10%	22%	21%	75%
3	36%	32%	44%	10%
4	17%	16%	11%	5%

ウ 改善の視点・・・何のために読むのか「読みの目的」を明確にする

(ア) 生徒に「思考」させることを目的とした読後の活動をデザインする → H27 県学調報告書参照

(イ) 英文の情報を、少し形を変えて表現させる(インフォメーション・トランスファー)

〔例〕①本文を「まったくこの話を知らない人に説明する」など、自分の言葉で説明するリテリング

②要約(少しずつ要約する英文の単語数を少なくして、大事なポイントを絞っていく)

③ダイアログをモノログにするSpeakingやWriting

授業アイデア例3

ここでは調査問題⑥の対話文を用い、「BillまたはYuriの立場になって、その日の日記を書く」という課題を設定



【Bill's diary】

I talked with Yuri about our report. She wrote it yesterday. Her report is about Miyazawa Kenji. She borrowed one of the books about him from the school library. I'm going to go there tomorrow. She helped me a lot. I think she is so kind.



【Yuri's diary】

I talked with Bill about our report. He is going to write about hot springs in Iwate. He visited Hanamaki to enjoy a hot spring two month ago. He likes *roten-buro* very much. I want to read his report about it.